

2018 (平成 30) 年 9 月 25 日

「(仮称) 余呉南越前ウィンドファーム発電事業に係る計画段階環境配慮書」 に対する意見

日本イヌワシ研究会 (SRGE)
会長 小澤俊樹

日本イヌワシ研究会は、1981 年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるニホンイヌワシ (以下、イヌワシ) の研究と全国規模での生息地保全に取り組んでいます。当会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖成功率が 10% 台にまで低下していること、既知の生息地から消失してしまったつがいが、この 30 年で 100 つがいを越えていること等が明らかとなっています (日本イヌワシ研究会 2017)。

(仮称) 余呉南越前ウィンドファーム発電事業の事業実施想定区域 (以下、予定地) は、イヌワシが利用しており、近傍に生息するイヌワシつがいの行動圏の内側に位置する可能性があります。また、予定地の周辺に生息するクマタカは、10 つがい以上と推測されます。したがって、当会は、周辺に生息するイヌワシならびにクマタカへの影響について、下記のように予測します。

なお、予定地は、滋賀県が「滋賀県イヌワシ・クマタカ保護指針」において『イヌワシ・クマタカの保護および生息環境保全ゾーン』に設定し、環境改変を避けるべき場所としています (滋賀県 2002)。

< 予測される影響① 衝突死による個体の損失 >

近年の予定地周辺におけるイヌワシの生息情報は多くありませんが、近隣在住の観察者によって、2016 年 10 月上旬に予定地内を飛行するイヌワシ成鳥 (ハンティング行動と考えられる) が確認されています。また、予定地から 10km 以内に 2 つがいのイヌワシの営巣地があります。岩手県の釜石広域ウィンドファームでは、イヌワシの衝突死が、巣から 18km 離れた場所で発生しており、当該予定地においてもイヌワシが衝突死する危険性が高いと考えられます。絶滅の危機にある高次捕食者の野生生物にとって、人為による個体の損失はあってはならないことです。

< 予測される影響② 生息地改変による繁殖への悪影響 >

予定地は、イヌワシとクマタカの重要なハンティングエリアや高利用域と重複する可能性があり、事業による自然環境の改変が、両種の生息地としての質の低下を招き、繁殖成功率の低下をはじめとする重大な影響を及ぼす恐れがあります。

< 予測される影響③ 生息地情報の漏洩による悪影響 >

事業計画に伴うイヌワシならびにクマタカの生息状況調査の実施により、生息地情報が一般に漏洩し、繁殖活動等を妨害するカメラマンによる被害等の発生が懸念されます (須藤 2013)。



以上より、日本イヌワシ研究会は、(仮称) 余呉南越前ウィンドファーム発電事業に対して、中止を含めた抜本的な見直しを求めます。また、両種について、計画に伴う調査を実施する際には、徹底した情報管理体制の整備を強く求めます。

【参考文献】

- ・日本イヌワシ研究会 (2017) 全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告 (1981-2015). *Aquila chrysaetos* 26 : 1-16.
 - ・滋賀県 (2002) 「滋賀県イヌワシ・クマタカ保護指針」
 - ・須藤明子 (2013) イヌワシの保全と生息地管理. 「日本のタカ学」(樋口広芳 編) 東京大学出版会, pp.257-280.
-